

群馬県国際理解教育研究会

だより

群馬県国際理解教育研究会
発行責任者 会長 天川 博

平成27年度 第17回在外教育施設派遣教員セミナー及び第37回派遣教員実践発表会

1 海外子女教育の特質と求められる教員像

高橋 悦史 副会長
(元フランクフルト日本人学校)
(前橋市立荒牧小学校長)

- (1) 派遣への期待と不安
海外生活の期待、国情・国際情勢の不安、海外に暮らす子ども達
安全対策と情報収集、住めば都
- (2) 派遣までを振り返って
教職10年を終えて、先輩教員の影響、家族の協力とタイミング
応募から派遣まで(学校や保護者の協力と応援)
- (3) 3年間の派遣を振り返って①
金融都市フランクフルト、1990年のドイツ統一
湾岸戦争と日本人学校、旧東ドイツを訪れて
- (4) 3年間の派遣を振り返って②
フランクフルト日本人学校の子ども達、日本人社会での付き合い
現地社会との交流
- (5) 日本人学校の役割
日本の学校との共通点と相違点: 学習指導要領に基づいた教育
理事会と授業料、ドイツ語の習得、交流学习
- (6) 求められる教員像
健康(家族も) 情熱(子ども達のために) 協調性(同僚・地域)、積極性(チャレンジ精神) →柔軟性とバ
ランス感覚
- (7) 派遣教員の役割
学力向上と世界に羽ばたく子ども達の育成、現地理解(ドイツ語習得と文化理解)と日本文化の紹介と交流
- (8) まとめにかえて
仲間(家族)との絆、視野の広がり(日本の常識≠世界の常識)、日本再発見、ラングザム



【講義する高橋悦史 副会長】

2 出願から渡航まで

宮内 裕美(事業部)
(元ヤンゴン日本人学校)
(前橋市立駒形小学校教諭)

- (1) 公募について
時期: 5月上旬、必要書類: 在外教育施設派遣教員選考調査票
(個人調査、派遣時期、教えることのできる教科、外国語、ク
ラブ活動指導能力、パソコンでの学習指導、派遣先の希望(ど
こでも or 下記の国、地域は希望しない)、志望理由
在外教育施設派遣教員推薦書(校長先生作成)
- (2) 県教育委員会面接
時期: 6月(県総合教育センター)、方法: 集団面接(4人1組
20分程度、面接官3名)、個人面接(15~20分、面接官1名)
結果: 6月下旬(県→市町村教委→学校→志願者)[文部科学省
に推薦するかどうか判断]
- (3) 質問内容
志望の動機、家族の理解、在外でどんな教育活動をしたいか?
今までの教職経験から、派遣されたらどんな貢献ができるか?
在外では教材・教具が限られているがどんな工夫ができるか?
現場での人間関係について、他の職員や上司、保護者と意見が食い違ったときにどうするか?
- (4) 群馬県派遣教員内定者研修会
時期: 7月上旬(県庁)、内容: 講話「文科省面接に臨む心構え」
- (5) 文部科学省選考試験
時期: 7月下旬(文部科学省)、方法: 個人面接(15分面接官3名) 結果: 2月下旬(次年度派遣:即派遣)
2月(再来年度派遣教員内定通知)
- (6) 質問内容
動機、家族の健康、派遣地域の確認、どんな活動をしたいか?、良好な人間関係を築くために必要なことは
免許外の教科を教えることになったらどうするか?



【講義する宮内 裕美先生】

(7) 派遣教員内定者研修会

時期：1月中旬、場所：国立オリンピック記念青少年総合センター
※配偶者研修会も1月下旬に行われる。内容：(1)講義「派遣教員に望まれるもの」「海外子女教育の現状と課題」「派遣教員の服務規律」「学校（地域）別情報提供」「赴任地における健康対策」

(2)その他：渡航手続き説明、医療補償制度、地域別健康相談、銀行口座開設、旅券発行、派遣先との連絡、派遣地域別グループ討議

(8) 群馬県派遣教員内定者研修会

時期：3月中旬、場所：県庁、内容：(1)講話「在外教育施設における教育の特質と派遣教員の役割」(2)任地別情報交換会：講師の前任派遣先生による現地の教育事情や生活事情について説明

(9) 渡航準備

予防接種、派遣先関連資料、教材・教具準備、賃貸住宅引き払い、運転免許証諸手続き、航空便発送



【熱心に説明を聞く参加者】

3 派遣教員実践発表

(1) 小西啓吾教諭（前ロンドン日本人学校、現藤岡市立第一小学校教諭）H23～26年度派遣（4年間）



(1) ロンドン日本人学校について

1976年6月18日誕生。39周年、1991年生徒数：964名、2015年：572名

(2) 実践報告

① 学校行事

・運動会、文化祭、遠足、写生大会、見学、進路講演会等

② ロンドンオリンピックでの取組

・選手へメッセージ、元オリンピック選手講演会、補習校への巡回指導

③ 修学旅行

・中2実施、テーマ：産業革命と奴隷貿易、職場体験も

④ 校内研修

・実践的コミュニケーション能力の育成～総合的な学習の時間の工夫～

(3) 派遣を終えて

① 海外で働いた貴重な経験が自分への自信となっている。

② 学校の伝統を強く意識するようになった。

③ 全ての方々との出会いが大きな財産となった。そして、家族との絆も深まった。

(2) 唐沢和之教諭（前北京日本人学校、現中之条町立中之条小学校教諭）H24～26年度派遣



北京日本人学校

(1) 仕事編

① 住居、学校、校舎、教室、児童生徒数、勤務、規則、

② 小4担任、学年主任、体育部長、初任研担当、研究部

③ 授業、教材、教科書、クラス写真、分掌組織

④ 運動会、体力作り、スケート教室、現地理解教育、研修

(2) 生活編

① 生活環境、治安、デモ、大気汚染、中国文化、生活用品

② 交通事故、国際情勢、健康対策、トイレ

(3) 派遣（研修）を終えて

① 「日本」を意識した教育実践 ② コミュニケーションの大切さ

③ 勤務に対する心構え ④ 感謝の気持ち

4 帰国者によるパネルディスカッション



富宇賀事業部長からの海外に行くまでの準備（担任として要録作成や引継ぎ書等）や派遣先との連絡、アパートの引き払い、国際運転免許の取得、医療関係や子どもの転校手続き等、海外での印象深い出来事などについてお一人ずつ貴重な体験について詳しくお話ししていただきました。



5 帰国歓迎会～6名の先生方お帰りなさい。お疲れ様でした。



【帰国された6名の先生方のあいさつ】

野口 剛先生（右手前）

シンガポール日本人学校中学部、現安中市立第一中学校教諭

堀込芳洋先生

ニューヨーク日本人学校、現草津町立草津中学校教諭

唐沢和之先生

北京日本人学校、現中之条町立中之条小学校教諭

高地朋見先生

パリ日本人学校、現下仁田町立下仁田小学校教諭

阿部恵一先生

ニュージャージー日本人学校 現前橋市立敷島小学校

小西啓吾先生（左手奥）

ロンドン日本人学校、現藤岡市立第一小学校教諭



◆お一人ずつから派遣を振り返って話をさせていただきました。（一人3分くらいでした？）



小西 啓吾先生



阿部 恵一先生



高地 朋見先生



唐沢 和之先生



堀込 芳洋先生



野口 剛先生

会員から質問に答えにくそうにしながらも、3年間の研修の成果を生かして一人一人ユーモアを交えて、子どもたちのことや現地で生活のことなど短い時間で話していただきました。会員も数名が思うのたけを話しました。

参加していただいた会員からのねぎらいの言葉と今後の活躍について、話したいという表情をした方々に短めにエールを贈っていただきました。



【高平裕寿副会長のねぎらいの言葉】



【森村淳史前会長からのねぎらいの言葉】



【話に拍手をしながらも口を挟む会員たち】



【前齋藤誠事務局長から新事務局へ運営を託す】



【小出祥弘事業部副部長：禅養寺住職】



【小菅達也研究部員からのねぎらいの言葉】



【共通の思い出話に盛り上がるUSA組】



【鷲頭一郎校長による思い出話】